

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072200518		
法人名	社会福祉法人		
事業所名	グループホーム フォーレスト		
所在地	東御市常田18-1		
自己評価作成日	平成26年6月	評価結果市町村受理日	平成27年4月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成26年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あなたが望む暮らしを、あなたと一緒に考えます」
 今年度のフォーレスト理念のもと、「その人にとっての日常・普通の暮らしとは」を考えながら、入居者・職員が共に、過ごしています。また、グループホームに入所される前の暮らしに着目し、決してグループホームへの入所が、地域社会との「今生の別れ」とならないように、地域への外出等を極力自由に、すぐに行えるようにする等、職員で協力して行っています。又、季節の行事も、入居者・家族とともに職員も一緒に楽しむようにしており、共同生活の楽しみを見つけるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな東御中央公園に隣接する一画に、地域住民が安心して暮らせる理想の地域福祉会を「福祉の森」として、実現し「あなたが希望する暮らしをあなたと一緒に考えます」という理念の達成に職員が笑顔で寄り添う生活空間がある。「森のこだま」という冊子で地域や家族に定期的に地域密着型のサービスの内容や利用者さんの様子などを知らせている。地域のひととかわりながらそのひとらしく、暮らしていくことを創意工夫し積極的に支えていく取り組みを行っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎年度、事業方針・事業目標を作成し、定期的に会議を行う中で職員に周知している。グループホームの役割についても説明している。</p>	<p>法人の理念のもとに事業所としての理念を掲げている。新人研修や定例会議の中でも職員が確認し日々実践している。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事に参加する事をはじめ、地域の自主的な清掃活動を行ったり、地域の他の事業所等と連携している。</p>	<p>しめ縄づくり、子ども相撲、運動会等の地域行事に参加し、法人全体の納涼祭には地域の方々に参加していただき交流をしている。日常的な交流ではアロマセラピーの訪問や花などを届けていただいている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症キャラバンメイト講座を定期的に地域の住民等にむけて行っている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回第2金曜日に入居者・入居者家族・市の関係者・区長・支区長等が参加し会議を実施している。地区行事や防災訓練にも相互に参加している。</p>	<p>運営推進会議で事業所はサービスの実際や課題を報告し、出席者から活発な意見が出され向上につなげている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の他、ケース会議等にも地域包括支援センターの職員に参加して頂き、事業所の実情や、日々の取組みを伝えている。</p>	<p>日ごろから運営推進会議やケース会議で双方が問題解決に向けて連携している。広域相談員の定期的な訪問もある。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束については、重大な人権侵害となる事を、職員へ指導している。日中は玄関の施錠は行っていない。</p>	<p>身体的拘束をしないケアの実践を目指し、職員への理解を図っている。利用者への見守りの方法を徹底し、一人ひとりが施設内での自由な生活を楽しんでいる。日中の施錠はない。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止については、職員同士で意識して防止に努めている。職員のメンタルにも配慮し、常に声をかけ、気になる時には、すぐに話をきくようにしている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職場内研修等を通して学んでいる。成年後見制度については、制度を利用した入居者も過去にあり、地域の司法書士・行政関係者等にて行う勉強会に参加している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>実施できている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの意見は、記録に残し、速やかに対応している。</p>	<p>運営推進委員会への出席。意見箱の設置、事業所の行事への参加、面会時等いつでも家族が意見を言える機会をつくり運営に反映させる努力をしている。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>1か月に1回の事業所会議を実施している。欠席者には申し送りをして、内容の周知を行っている。</p>	<p>月1回の事業所会議の中で意見や提案が出され、管理者は職員からのアイデアや提案を運営に反映している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	法人として人事考課制度がある。グループホーム内の就業環境についても、グループホーム単体のみならずフォーレスト全体の問題として捉え、改善に取り組んでいる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その職員一人ひとりの特性をふまえて、研修期間や、内容を設定している。職員が必要な資格に係る受講費用及び時間を保障している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人のグループホーム職員と相互に意見を交換する場や、お互いの施設を体験しあう事業に参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式のアセスメントツールに準じた書式にて、定期的にモニタリングを行う。居室担当者がより多く、一人ひとりの事を知るように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望者名簿に沿って、定期的に入居待機者との面談を実施している。その際に家族の方の不安や要望等も傾聴している。入所してから、その関係を継続し、どの職員も面会の際等に家族のお話をきく事ができている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GH入所前の在宅生活の中で培った社会関係を維持できるよう、GH入所後もなじみの商店に買い物に行ったり、又、デイサービスに行き友人とお話してもらったり等、配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者という認識を、日々職員間で共有し、又、新たに配属される職員へ伝えている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはいつでもご本人を訪ねてもらいたいと入所時に伝えている。又、外出・外泊等、ご本人の希望がある場合には、協力を求めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や、知人・友人とのつながりを本人の要望に応じて、継続できる支援をしている。	なじみの美容院や行きつけの店での買い物支援の継続をしている。知人が利用しているデイサービスに訪問し、友人との関係が継続できるようにしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースの座席位置も入居者同士の関係性を考慮し、決定している。入居者同士で、話し合い、居室を訪問し合う場面もみられている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった方や、入院退所となった方、また、他施設へ転居された方々へも訪問・面会する等して、本人・家族との関係性をつないでいる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動を細かく記録し、職員間で情報を共有している。検討する際は、「あなたが望む暮らしをあなたと一緒に考えます」の理念に立ちかえっている。	利用者ごとに「私の気持ちノート」に言葉や表情行動を記録し、情報を共有し利用者の真意を推し量る努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回のアセスメント時に本人・家族からききとる。また、日々、お話しする中で、その方がよくお話しになる過去の事を、職員で認識する。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なモニタリングと通して、入居者の方の現状を職員同士で認識している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングを行い、ケアプランの見直しを行っている。ケアプランの実行表にて、日々のケアプランの実施状況を把握できるようになっている。	利用者の行動や言葉を記したノートから、気持ちをくみ家族の願いや意見を聞きみんなで話し合っけてケアプランをたてている。状況に応じて、モニタリング、介護計画の見直しをしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・ケアプラン実行表を日々記録し、職員間で情報が共有できている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設したフォーレスト内の機能は利用できるようになっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	東御市民間介護・福祉事業所連絡会等にも積極的に参加し、地域住民・行政・医療機関・他事業所等との顔の見える関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>嘱託医がかかりつけ医となっている。希望すればその限りではない。専門医の受診も希望する医療機関に受診でき看護師が同行する。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>月曜日～土曜日：午後1時30分に看護師がGHを訪問し、職員と入居者の健康状態について確認及び相談する時間がある。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>基本的に入院は嘱託医の病院となるので、情報については、システムにのっとってスムーズに伝達できている。又、病院との連絡は、看護師により行っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医療連携体制加算を算定している。基本的には、医学的管理を要する方には嘱託医の判断にて入院療養を前提とする。本人・家族の強い希望があり、嘱託医が判断された場合には、GHにて最期まで、看取った前例もある。</p>	<p>終末期に対する方針は、入居時に説明している。状態の変化はその都度、嘱託医から家族や本人に説明されて今後について話し合いがもたれている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを指導している。緊急時の連絡体制も職員間で認識している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設の施設で地区との防災協定を締結している。今年度は消防団の立ち会いの中、防災訓練を実施している。ホームにはスプリンクラーや自動通報装置が備えられている。</p>	<p>消防団立ち合いで年2回訓練実施をし、1回夜間想定で実施している。スプリンクラー、自動通報装置の設置、非常時連絡網作成済み、食料の備蓄3日分あり。</p>	<p>災害は火災だけとは限らないので、自然災害時の対応について、研修・訓練が必要と考えられる。近所の方への協力依頼の検討も望まれる。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについてグループホーム内で職員へ指導している。又、日々の生活の中でも、入居者のプライバシーに配慮した介助ができています。	利用者の誇りを傷つけないようさりげない言葉かけ、ケアにつなげている。また聞かれたくないときは場所を変えて支援している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「あなたが希望する暮らしをあなたと一緒に考えます」という基本理念を共有し、ご本人が自ら決定できるよう声かけ等のコミュニケーションに注意をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の一日のペースを大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、着替えて共有スペース(食堂)にてできて頂いている。夏祭りの時には、浴衣に着替え、化粧して頂く等、ボランティアの方の協力もえながら、装いを楽しんで頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日・行事の時は、入居者に希望をきいてメニューを決めている。三食の主菜は外部委託しているが、副菜や味噌汁はGHで調理する。	主菜はクックチルシステムで外部委託で行われ、主食と汁ものと週1食は事業所内で調理をしている。食事は事業所で利用者の食形態に合うように、手を加えている。全員が箸を使用し、時間がかかっても楽しみながら自力で食べている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態にあわせた食事形態を管理栄養士看護職員と相談して決定している。食事量・水分量は日々記録し、看護師に伝達し、いつもと異なる場合は、補助食を提供する等、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、就寝前にお声をかけ、入れ歯を洗浄して頂く等して、実施している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックリストにより利用者一人ひとりの状態を把握している。介助方法についても統一している。	トイレでの排泄を基本として利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックリストにより、排便パターンを確認し、下剤でのコントロール等、看護職員と情報を共有し、実施している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を、午後・夕食後の時間帯で毎日行っている。季節の変わり目には、りんご湯等を楽しんで頂く。	入浴日は決めず午後と夕食後の時間帯に入浴できるようにしている。週2日以上の入浴を基本とし実施している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度管理には、注意しており、室温チェックも実施している。夜勤者により、入居者一人ひとりの夜間の睡眠状況を確認している。		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期では、月に2回薬が処方される。処方された薬の仕分け・記名・服用時間帯の記入等の管理作業を通して、入居者個々の服薬状況を職員一人ひとりが認識している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	飲酒を嗜好していた方には、行事にはお酒を提供する等している。他にも、入居するまでに楽しまれていた習慣や趣味等も極力継続して頂いている。敷地内には畑もあり、皆で育てている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事(初詣・虫見学等)には、例年出かけている。入居者の方の希望をきいて、行先を決める外出活動も企画している。	行事の計画に沿って定期的な外出がある。急な外出希望(お盆、墓参り、葬儀)など個人を尊重し対応している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際に、入居者個人が自らのお金で自らの物を購入する事を支援する。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は、事前に了承をえており、自由にかける事ができる。(電話料金は徴収していません)		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下と廊下の中に中庭があり、明かりが十分にとれ、共有スペースは窓も大きく、見晴しもよい。又、廊下やトイレ等も車いすや歩行器を使用していても、十分な広さを備えている。	食堂は大きな窓と中庭からの光で明るい。畳のスペースもあり居心地のよい空間となっている。思い思いに新聞を読んだり、テレビを見たり自由に時間を過ごしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースの関係上なかなか一人になれる場所がありませんが、離れた位置にソファを設置する等して、工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居前に使用していた家具の持ち込み等を推奨している。又、TVを置いて頂いたりして、個々人が以前の住居と変わらずに、気兼ねせず過ごせる環境となるよう努めている。	各居室の入り口に表札がかけられている。入居前に使用していたテレビ家具などが持ち込まれている。花の鉢、写真、温度計などが置かれて、利用者さんは居心地よく過ごしている様子がうかがえた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで設計している。死角があり、転倒リスクが高い人の場合は了承をえてセンサーを設置する等して、安全に努めている。		

目標達成計画

作成日:平成27年1月15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	立地条件等もあり、グループホームから積極的に地域とのかかわり(交流)をもととしないと、薄くなってしまう。	行事だけでなく、定期的に入居者が地域へ出かけていく生活を組みたい。	運営推進会議等で、地域の自治会の方をお願いし、地域の花壇の整備などをらせていただく等。	6ヶ月
2	35	夜間等、勤務する職員が1人配置の時に発生する災害への訓練が不十分。	災害に限らず、その他の災害リスクや緊急事態を想定し、より現実的な想定訓練を行う。	地域の消防団、自治会の方々にも立会い頂き、夜間、火災発生時の通報、避難訓練を行う。	3ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。